

友定啓子先生の連載、一々五歳児、そして〇歳児についての「幼児の笑い」とその保育における意味」、今月号で最終回となりました。子どもの内面の表現である「笑顔」も、まわりの大人達に支えられて、育っていくのですね。この次は「保育者の笑い」についても、是非、書いていただきたいと思っております。

友定先生、一年間、どうもありがとうございました。ございました。

*

九月号にひきつづき「鳴門旅行記」いかがでしたか。子ども達の「行ってみたいな」という願望が、本当に実現してしまっただけで、すてきですね。もともと園同士や先生方の研究交流はあったのでしようが、幼稚園で収穫した玉ねぎやじゃが芋を送ったことがきっかけとなり子ども達の交流も深まったようです。

「カレーをごちそうするので鳴門に遊びに来てください」というお手紙をもらい、行ってみたいと思った。大人の世界

では半ば社交辞令で、「機会があったらまたね」となっても不思議でないことでしょう。その気になった子ども達と、それを実現させてあげたいというまわりの大人たちの気持ち、とても暖かく伝わってきます。この後、第二班もひきつづき、出発したそうです。

子どもが減少してきている今、こんな思いきった身軽な保育が、もっともつと楽しめるのではないのでしょうか。

*

最近、子どものお料理がはやっています。テレビ番組の影響もあるのでしょうが、子どもの生活がごっこから本物（大人）志向になってきたということでしょうか。それにしても、お料理は火も包丁も使うし、危険が一杯です。それを使いこなしておいしいご馳走を作るには、必然的に集中力と注意力、手先の器用さが要求されるわけです。子ども達のお料理する姿は真剣です。そして、でぎ上がり最高にお楽しみなのでしょう。（K）

幼児の教育

第九十一巻 第十一号
(一九九二年十一月号)

定価四五〇円(本体四三七円)

平成四年十一月一日 発行

編集兼発行人 本田和子

発行所 日本幼稚園協会

東京都文京区大塚二一一一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

東京都港区三田五一一二一一

株式会社 フレーベル館

東京都千代田区神田小川町三一

振替口座 東京九一九六四〇

電話〇三二三二九二七七八一

●本誌御購読の御注文は発売所フレール館にお願いします

●万一、落丁・乱丁などがございましたら、おとりかえいたします。